

Q9

日本脳炎の抗体保有状況について教えてください。

A

感染症流行予測調査事業により、数年毎に調査が実施されていますが、抗体保有状況は、ワクチン接種の有無によって変わってきます。年齢群別にワクチン接種歴有群と接種歴無群について抗体保有率及び平均抗体価を比較すると、平成16年（2004）の調査では1：10以上の中和抗体保有率は、0～14歳ではワクチン3回以上接種群で99%、ワクチン非接種群で9%と、ワクチン接種群で明らかに高く、15歳以上の年齢群でもワクチン3回以上接種群で80%、ワクチン非接種群で33%と、非接種群との間に差が認められました。

しかし、1：10以上の抗体を持つ者の幾何平均抗体価は、接種群（基礎免疫3回終了者）では168.6、一方非接種群では49.9でした。

平成18年（2006）の調査では、平成17年（2005）5月30日の、厚生労働省による日本脳炎ワクチン積極的勧奨の差し控え以降、3～4歳での日本脳炎ワクチンの接種率が激減し、その結果、ヒトの日本脳炎に対する抗体保有状況は、1～3歳群で10%未満、0歳と4歳で20%未満とこれまでにない低い割合になっていました。平成19年（2007）の調査では、2歳で10%未満、0～1歳群と3～4歳群の抗体保有率は10%台、5歳の抗体保有率が約40%と3～5歳でこれまでにない低い割合になりました。6歳以上20代前半までは70%以上の人が1：10以上の中和抗体を保有しています。20代後半から抗体保有率は徐々に減少し、40代後半で20%台と最低になり、その後年齢が上昇するにつれて抗体保有率は高くなり、60歳以上群では60%台の抗体保有率でした。（国立感染症研究所感染症情報センターHP：日本脳炎Q&A参照 <http://idsc.nih.go.jp/disease/JEncephalitis/QAJE.html>、感染症流行予測調査参照 <http://idsc.nih.go.jp/yosoku/index.html>）。